

コース別選択科目「教員研修プログラム開発演習」 ーハイブリッド型授業の実践事例ー

教育実践高度化専攻 露口健司

授業の到達目標

授業の到達目標は「スクールリーダーとしての自覚のもと、今日の学校を対象とする新たな研修（校務系・マネジメント系研修）を開発するための知識を習得するとともに、実際に開発し提案することができる。」である。

授業計画

本授業は、以下に示す6つのテーマから構成されている。

- (1) 業務改善研修
- (2) コンプライアンス研修
- (3) 管理職研修
- (4) 地域学校協働活動研修
- (5) 若年層教員育成研修
- (6) 新たな教員研修プログラムの紹介

授業方法

鳴門教育大学教職大学院生が参加しての双方向型遠隔通信方式の授業を10月3日（土）と4日（日）の2日間、愛媛大学教育学部ICTクラスルームを核として実施した。2日間は講義形式の授業であった。また、11月7日（土）は、愛媛大学にて対面形式（5名）と遠隔通信方式（1名）のハイブリッド型授業を実施した。愛媛大学から2名、鳴門教育大学から1名が、自らが開発した新たな教員研修プログラムを提案した。院生の発表タイトルは以下の通りである。

- ・若手教員 OJT の実践発表アセス演習（愛媛大学）
- ・サーベイ・フィードバック法を用いた校内研修（愛媛大学）
- ・コンプライアンス研修：信頼される学校・教職員のための研修（鳴門教育大学）

本科目は、四国4大学の単位互換科目である。受講者は愛媛大学3名、鳴門教育大学3名の計6名（全員現職教員）であった。また、指導助言者として愛媛大学の高橋特定教授と

なる教育大学の小坂教授が参加した。

ICTクラスルームは、通信用カメラ3台、スピーカー2台、スマートボード1台、モニター2台、iPad40台、学習アプリ（Loilo, MetaMoji）、プログラミング学習用ロボット（Pepper）が備わっている遠隔通信型の授業に適した教室である。本科目では、他大学との円滑な通信技術の他、授業の複数場面で高度情報技術を活用している。

- ・タブレットとスマートボードの連動によるデジタル付箋を使用したワークショップ
- ・Google フォームを活用したアンケートと即時的フィードバックの実施。
- ・デジタルワークシートの活用。
- ・ユーザーローカルのテキストマイニング技術を用いたフィードバック。

授業評価

遠隔通信授業の自由記述アンケートでは、「研修プログラム報告会を対面で開催したことにより、本論以外の多面的な交流ができた。遠隔通信では、表層的な対話にとどまっていたらう」「他大学の現職院生と対話交流することで、愛媛県の学校教育・研修の特徴が理解できた」「GIGAスクール時代では、授業だけでなく、研修においても多様なICT機器を使用することの必要性を感じた」「提案された研修をぜひとも勤務校でも実践してみたいと思った」等の記述があった。

地域社会を核とした教育と研究のつながり

本講座で開発した研修プログラムは、3件いずれも勤務校等で実践されている。講義等で習得した知識・技能を用いて研修プログラムを開発し、開発した研修を勤務校等で実践し、職員の職能開発に貢献している。教職大学院で得た知識・技能を、地域に還元するという理念を具現化した授業である。